授業科目	比較文化と国際理解					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	森　敦嗣						

授業概要

現在、世界の多くの地域では、政治、経済、社会、文化いずれの領域においても、人、もの、金、情報が国境を越えて自由に行き交うのが当たり前の世の中となっている。そうした状況をグローバル化という言葉で表しているのは皆さんもよくご存じだろう。それは日本も例外ではない。現在の日本社会は日本人だけでなく他の国々の人々が当然のように共に暮らすのが当たり前の社会、いわゆる多文化社会になりつつある。こうした社会に生きる私たちにとって、文化的背景の異なる人々と接触し、交流することは珍しい出来事ではなくなってきている。

しかし、その一方でグローバル化や多文化社会には問題が多々あり、必ずしも理想的な社会とは言い難いのも事実である。異なる文化があるところには摩擦や誤解が避けられず、自分とは違うものへの憎しみは争いを生む。地域によっては紛争やテロへとつながっているところもある。このような現実に際して人々に求められているのは、自分と異なる価値観や文化を持つ人々への寛容と理解だといわれている。だがそれだけでなく、そもそもなぜ異文化間で対立や争いが起こるのか。その根本的な要因を知ることも現代の私たちの課題といえるだろう。

本講義ではこうした課題を踏まえたうえで、文化の特徴と性質、差別の現状と問題、国際結婚からみる異文化コミュニケーション、そしてグローバル化社会における課題といった項目に焦点をあてながら授業を進めていく。授業内容として講師の解説に加え、アクティブラーニング形式の確証チェック（ディスカッション）を適宜行い、学生にも自分の意見を発言してもらう。学生の皆さんにはこれらの授業内容を通して自分たちと価値観の異なる人々との関係のあり方について改めて考えてもらいたい。

毎回の授業では授業内容に即したレジュメを配布する。小テストは適宜実施する。レポートに関しては講義に関連した映像内容を元に提出してもらう。

授業形態	講義	授業方法	

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	1.「異文化理解」に関連する基礎的な知識・用語について理解し、他の人にも説明できる（DP1-1） 2. 異文化関係で議論されている各々の問題やテーマについて理解し、自分の意見・考えを述べることができる（DP1-1）（DP4-1）。
理想的レベル	多文化社会やグローバル化の現状と問題点について理解し、自分の意見・考えを論理的に説明することができる（DP1-1）（DP4-1）。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	60%	
小テスト	20%	
レポート	20%	
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU10412J WE10412J

								NT10412J EN10412J T010412J

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）
毎回の授業前に各回の授業内容に関わる部分をテキストで目を通しておくこと。授業後は配布したレジュメの最後にある授業のまとめを使い、授業で解説した部分やテキストの内容を参照しつつ、授業の内容を確認する。	4

授業計画	
第１回	テーマ：イントロダクション 授業の概要と評価方法について、授業で使用するテキストについての紹介と解説、レポート・論文の基本的な書き方
第２回	テーマ：異文化理解の意義と文化について① 文化の定義、文化の構造、文化モデル、具体的事例に基づいた確証チェックの実施
第３回	テーマ：異文化理解の意義と文化について② 文化の特徴、人間の行動を規定する個人的側面と普遍的側面の違い、確証チェックの実施
第４回	テーマ：自己とアイデンティティ 自己概念、社会的・文化的アイデンティティの特徴
第５回	テーマ：世界の価値観 個人主義 VS 集団主義、性善説 VS 性悪説、高文脈文化 VS 低文脈文化、確証チェックの実施
第６回	テーマ：差別を考える 差別の種類、差別が生まれる背景、日本における男女差別の問題について、小テスト①（※変更あり）
第７回	テーマ：映像から差別を理解する① 映画『フィラデルフィア』から差別の歴史を理解する(前半)、同性愛者に対する差別について
第８回	テーマ：映像から差別を理解する② 映画『フィラデルフィア』から差別の歴史を理解する(後半)、レポート提出①
第９回	テーマ：異文化適応と言語コミュニケーション 適応曲線について、言語コミュニケーションの意味と用法、確証チェックの実施
第10回	テーマ：非言語コミュニケーション 非言語コミュニケーションの性質と種類、確証チェックの実施
第11回	テーマ：映像から比較文化を学ぶ① 映画『最高の花婿』から異なる文化を持つ人間関係の葛藤と衝突を読み取る（前半）。
第12回	テーマ：映像から比較文化を学ぶ② 映画『最高の花婿』から異なる文化を持つ人間関係の葛藤と衝突を読み取る（後半）。移民社会の現状について、レポート提出②
第13回	テーマ：グローバル化とアイデンティティ 『多文化・多様性ハンドブック』から日本の学校制度、徒弟制度の意義を考える、小テスト②（※変更あり）
第14回	テーマ：政治制度、法制度からみる比較文化 日本とアメリカの政治制度の違い、死刑制度のある国（日本）と死刑制度のない国（欧州）の比較

第 15 回	テーマ：全体のまとめ 本講義全体の総括、試験対策について
テキスト	松永典子編著『学校と子ども、保護者をめぐる多文化・多様性理解ハンドブック 第 3 版』（金木犀舎、2022 年）※授業の合間に関連するページを読む。 毎回の授業ではレジュメを配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	石井敏、久米昭元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション――多文化共生と平和構築に向けて――』（有斐閣選書、2013 年） 施光恒『英語化は愚民化――日本の国力が地に落ちる――』（集英社、2015 年） 平林信隆『多文化理解と異文化コミュニケーション――多国籍学生チームと共に学んだ理論と実践――』（創成社、2019 年）
課題に対するフィードバックの方法	小テストは採点後、返却する。レポートは返却し、内容によってはコメントをつける。試験は成績発表後に回答例を提示する。
学生へのメッセージ・コメント	予受講者には異文化理解に自ら興味を持ってもらうため、一部の授業では学生参加の確証チェックを授業の合間に行う。また TV のニュースや新聞にも日頃から目を通し、政治や社会と言った分野で今どんなことが話題になっているのか注意しておいてほしい。 （注意事項） レポート、課題等の提出の締め切りは厳守。「正当な理由のない」期限を過ぎての提出は欠席となる。